



明治150年 米の流通に関するアーカイブ

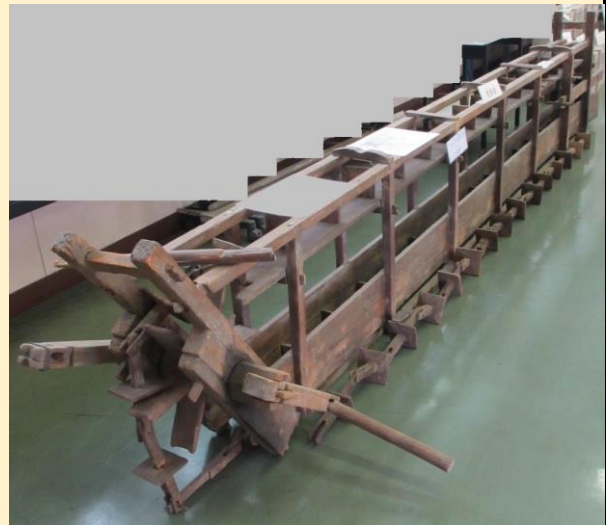
公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

カテゴリー

生産

【資料名】 竜骨揚水機
【年代・来歴】 明治30年頃
【寸法】 全長447cm、全幅76cm
【材質】 木製
【保存状態】 概ね良好

【全景】



【略説明】

川や溜池などから水をくみ上げる手回しの揚水装置。竜骨車。竜骨と呼ばれる多数の木板がチェーン状に連結され、その木板で水をすくい上げ、樋を伝ってくみ上げる。竜骨揚水機は手回し式と足踏み式があるが写真の竜骨車は手回し式で揚水の際は二人がかりで作業する。また当初は600cm程の長さがあったが、使用上の都合で現長に短縮されたものである。

なお竜骨揚水機は構造が複雑で壊れやすかったといわれており、江戸中期以降、揚水能力に優れ、構造も簡単な踏み車が普及することとなった。

(参考: 竹内智志ら「江戸時代中期に登場した人力揚水機「踏車」に関する研究」)

【上端】



【下端(水浸部)】



【注記】

所蔵元である愛知県農業総合試験場(本場)は、収集・寄贈された農具等を展示・保存している「農業啓発館」を併設している。ここでは明治から昭和初期にかけて県内の農家で実際に使用されていた米づくりや養蚕などの農機具のほか、民具、生活用具なども展示しており、無料で見学することができる。

また同試験場で改良・開発された「名古屋コーチン」に関するコーナーもある。

【所蔵機関】 愛知県農業総合試験場(本場) 農業啓発館

【住所】 長久手市岩作三ヶ峯1-1

【連絡先電話番号】 0561-62-0085(企画普及部経営情報研究室)

【所蔵先URL】 <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/nososi/0000061362.html>

【閲覧】 常設展示

開館時間：9時30分～15時30分

休館日：土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

入館料：無料